

団体ヒアリング実施報告（速報）

令和7年12月

府中市

1 実施概要

本ヒアリングは、「第4次府中市生涯学習推進計画」の策定に当たり、地域を担う市民の方々や生涯学習に係わる関連団体の方々に、活動状況や活動から見える課題、府中市の生涯学習施策等に関する多様なご意見を伺い、市における生涯学習等の現状を把握し、地域性や現状に即した実効性の高い計画を策定するための参考とすることを目的に実施しました。

2 実施内容

(1) 実施日時等・参加団体

■個別ヒアリング① (計5団体)	
【日時・場所】 10月20日(月) 9:30~10:30 府中駅北第2庁舎 3階小会議室	【参加者】※団体ごとに1時間ずつ実施 ・NPO 法人アーティスト・コレクティブ・フチュウ ・府中市肢体不自由児者父母の会 ・魁星 ・府中市史談会 ・特定非営利活動法人ママチャリーズ
■グループヒアリング (計9団体)	
【日時・場所】 10月22日(水) 10:00~16:45 生涯学習センター 市民活動センター プラッツ 中央文化センター	【参加者】※各施設で活動する団体でグループヒアリングを1時間半実施 ・生涯学習センターで活動している団体及び指定管理者 エッチングの会、府中囲碁クラブ・こもく会、リリアーレ ・市民活動センタープラッツで活動している団体及び指定管理者 科学体験クラブ府中、府中市観光ボランティアの会、ふちゅう道しるべ ・中央文化センターで活動している団体及び文化センター職員 多摩友の会(府中方面)、てびねり会、練功十八法の会
■個別ヒアリング② (計5団体)	
【日時・場所】 10月24日(金) 9:30~10:30 府中駅北第2庁舎 3階会議室	【参加者】※団体ごとに1時間ずつ実施 ・府中市スポーツ推進委員会 ・府中市総合型地域クラブすたあと ・府中市民交響楽団 ・NPO 法人府中かんきょう市民の会 ・府中市多文化共生センターDIVE

その他、府中市生涯学習審議会委員の所属団体については、ヒアリングシートでの回答を依頼。

- ・府中市スポーツ協会
- ・府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」
- ・府中市立小中学校PTA連合会
- ・府中市芸術文化協会

(2) 実施手法

(1) の通り、1 団体ごとの個別ヒアリングと、各施設に関連する団体ごとのグループヒアリングを組み合わせて実施しました。また、事前アンケート調査を実施し、ヒアリングにおけるご意見を補完しています。

その他、府中市生涯学習審議会委員の所属団体については、ヒアリングシート（ヒアリングアンケート）での回答を依頼しました。

(3) ヒアリング項目

■個別ヒアリング

共通項目
○事前アンケートの回答について 現在の活動状況、活動を通しての成果、現在の活動で課題、今後の活動で目標、市に対しての要望 ○府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと
団体別項目
その他、団体ごとに個別項目を2項目聴取（詳細は各概要シート）

■団体ヒアリング

共通項目
○活動状況や課題等について（事前アンケートから） 現在の活動状況、活動を通しての成果、現在の活動で課題、今後の活動で目標、市に対しての要望 ○5年後、府中の“学び”はどんな姿になっていたらいいと思うか
団体別項目
その他、団体ごとに個別項目を1項目聴取 ○生涯学習センターを、より市民の学びの拠点としていくために必要なこと ○市民活動の場であるプラッツを通じて、人と人、活動と活動がもっとつながり・学び合うために必要なこと ○中央文化センターでの文化・芸術活動を通じて、市民の学びをさらに広げていくために必要なこと

■ヒアリングシート（ヒアリングアンケート）

共通項目
○団体名、回答者名、会員数など ○活動を通しての成果 ○現在の活動で課題 ○今後の活動で目標 ○市に対しての要望 ○府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと

※実施形式（個別・グループ）が異なるため、それぞれ聴取内容も異なります。

(4) 事前アンケート項目

事前アンケート項目
○団体名、回答者名、会員数など
○現在の活動状況
○活動を通しての成果
○現在の活動で課題
○今後の活動で目標
○市に対しての要望

結果概要

1 結果概要とりまとめ

(1) 本市の生涯学習について（個別・団体ヒアリングより）

【学びの機会について】

- 生涯学習の裾野を広げるためには、地域活動に参加が少ない層（男性など）への働きかけを含め、参加の「きっかけ」づくりと、参加につながるまでの丁寧なフォローが重要。
- 日常の中で気軽に体験できる機会を設けるなど、参加しやすい仕組みづくりが求められている。
- 市民へ文化的な余暇の過ごし方や、文化施設の活用を案内するなど、きっかけづくりが必要。

【講座・プログラムについて】

- 「自分で考える」ことを重視した学び、人と意見を交わす「対話」の学びが必要である。
- 障害の有無に関わらず、誰もが対等に意見を交わせる「建設的対話」の場が求められている。
- 現状では高齢者向けの講座が多く、若い世代や子育て世代、高齢男性向けなど多様な層の関心を惹く内容が不足している。また、生涯学習センターの人気講座は倍率が高く参加しづらい状況。
- 短い空き時間でも気軽に参加できる柔軟なプログラム設定や、世代を超えて参加できる企画を含め、行政の横断的な連携による「誰もが参加しやすい講座」が求められている。

【学びの生かし方について】

- 講座や学習で、また働いていた時に身につけた知識・経験を、地域や社会で生かすための仕組みづくりが重要。講座受講後に動きやすくてつながりやすいシステム、実際に相談・会話ができる場（オープンチャット等）などが求められている。
- 「学び返し」という概念は、個人対個人よりも多人数で活動する団体の中で知識や経験を生かす形に適していると考えられる。
- 「学び返し」を効果的に実現するために、生涯学習ファシリテーターやサポーターの役割や位置づけを明確化する必要がある。

【情報発信について】

- 生涯学習センターを学びの拠点として強化するために、SNSを含む多様な媒体を活用し、発信力を高める必要がある。
- 参加を広げるためには、必要とする人に必要な情報を確実に届ける体制づくりが重要であり、「知らないから参加できない」状況を解消する工夫が求められている。
- 市のメールマガジンが多言語に対応していないことや、外国人向けの情報発信の仕組み（DIVE）が十分に活用されていないことから、多様な市民に届く多言語発信の強化が必要である。

【団体活動や協働について】

- スポーツ・文化といった分野の枠を超えて「生涯学習」を共通の視点とした連携を進めることが重要。地域団体（NPO）や学校、企業などと市が伴走的に連携できる仕組みの構築が課題。
- 団体同士が情報交換や連携しやすい横のつながりを強化することが求められている。
- 多くの団体で、担い手不足や指導者の高齢化が進んでおり、若い世代の参入を促す仕組みづくりや、団体が発信・発表できる場の創出（きっかけづくり）、情報発信支援（HPやSNS等）も課題である。
- 団体での困りごとの相談や、市民活動へと広がるリーダー育成、世代間交流の促進など、持続的な活動を支える協働体制の構築が求められている。

【施設や居場所づくりについて】

- 市内の豊富な生涯学習関連施設（文化センター、プラッツ、博物館、美術館など）の連携強化が重要となっている。
- 新生涯学習センターの整備にあたっては、デジタル環境の整備やアクセス環境の改善を図り、府中の魅力を発信し市内外の人が集う、新たな拠点づくりが期待される。文化センターと生涯学習センターが複合化を契機に、管理主体の連携をうまく進めていくことが必要。団体間交流の拡大、地域全体の学びの拠点としての機能強化が期待される。
- プラッツにおいてはアクセス性を生かし、活動しやすい仕組みづくりや、潜在的な関心層へのアプローチなど、多様な世代が集える環境づくりが期待される。
- 団体の利用施設への要望は多様となっており、練習場所の確保や、学校施設の開放の時間と体育館の冬場の暖房対策、生涯学習センターの利用料や部屋の大きさなど、活動環境の改善が重要となっている。
- 地域や世代を問わず、誰もが安心して学び・活動できる施設や居場所の整備が求められている。特に、子どもや中高生にとっては、放課後や趣味・遊びの活動ができる、安全で明るいかつ無料で利用できる居場所が不足している。（文化センターは閉館が早い。）

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	NPO 法人アーティスト・コレクティブ・府中	場所	第2庁舎3階小会議室
日時	令和7年10月20日(月) 午前9時30分～10時30分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分で考える」ことを重視した学び、人と会って意見を交わす「対話」の学びが必要。 ・(市民へ)文化的な余暇の過ごし方や文化施設の活用を提案する。 ・高齢者の孤立を防ぐためにも交通インフラの整備が必要。(小柳町、是政エリア) ・競艇場や競馬場が近い地域の公園は子どもにとって安全ではない、文化センターが数少ない子どもの居場所になっている。 ・地域団体(NPO)と市が伴走できる仕組みの構築。(例:アートフルアクション 小金井市) 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・アーティストにとって表現を受け止めてくれる人が必要。 ・様々な人が出会う場所が必要。(企画は対象を限定しない、市民の交流の場) ・子ども向けのイベントであっても、一緒に来た親や立ち寄った人にも届くことを意識したプログラムをつくる。 ・障害者も参加しやすい、様々な人々が出会う場所を「教育」ではなく「文化」からつくりたい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
対象者(子ども、大人など)を意識した企画について	<p>●メンバーは様々な背景や意図を持っており、意識する対象は異なる。団体として何か一つを対象としている意識はない。</p> <p>◇対象を限定しない、異なる人が出会う場所が必要。</p> <p>◇子供向けのイベント(対象に向けている)を装いながら、一緒に来た親や働く世代の人々に届くプログラムをつくる(当団体ではそのようなことを意識している)。</p>
他自治体での活動について、府中市での活動に参考になる、取り入れたらよいと思った事例	<p>◆生涯学習に限らず福祉分野も含め、地域団体(NPO)と市が伴走できる仕組みを構築してほしい。(例:アートフルアクション 小金井市:自治体との継続的な伴走により学びの機会を構築、地域の小学校でイベント、多摩地域に波及)</p>
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<p>◇「自分で考える」ことを重視した学び、人と会って意見を交わす「対話」の学びが必要。</p> <p>◇文化的な余暇の過ごし方、施設の活用の在り方が市民に浸透していく必要がある(例:美術館へ行く、図書館へ行く、演劇のワークショップに参加する など)</p> <p>◇デジタルに適應している高齢者とまったくデジタルを使えない高齢者、それぞれがつながることでデジタル・ディバイドも解消できるのでは。</p> <p>◇小柳町、是政エリアの人々(特に高齢者)は生涯学習センターに行きたいけどいけない人が多い。交通インフラの整備が必要。孤立を防ぐ手段になるのでは。</p> <p>●子どもの居場所:競艇場や競馬場が近い地域では治安が心配なので公園はあまり使わず、文化センターが数少ない子どもの居場所になっている。</p> <p>◎障害がある人も参加しやすい、異なる人々が出会う場所を「教育」ではなく「文化」からつくりたい。</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市肢体不自由児者父母の会	場所	第2庁舎3階小会議室
日時	令和7年10月20日(月) 午前10時45分～11時45分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・短い空き時間に気軽に参加できる、曜日や時間の制約があまりないプログラムが必要。 ・行政の分野横断的な取り組みにより、みんながつながれる機会、様々な情報を享受できる仕組みが必要。 ・障害がある人もない人も対等に「建設的対話」ができる場がほしい。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代の人々、同じような障害を持つ人々と話す場所がない。(交流の機会) ・タブレットを使ったワークショップやICTを活用した活動があれば障害者も参加できる。(例:織姫カフェの従業員) ・障害を持つ人と一般の市民と一緒に楽しめる企画があるとよい。(特別扱いを受けない機会) ・移動支援サービスや車を使って外出するには、駐車場、大人が使えるトイレのベッドなど設備が整っている必要がある。 ・様々な分野からライトな支援や生涯学習で培ったものを地域の支えあいに活用するなど福祉にかかわってくれる人が増えてほしい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
障害のある子どもを対象にした講座やワークショップなどのニーズ	<p>○移動支援サービスが利用できても行く場所がない。(同世代の人々、同じような障害を持つ人々と話す場を求めている。)</p> <p>◇タブレットを使ったワークショップ、ICTを活用した活動があればよい。(例:分身ロボット OriHime カフェの従業員)</p> <p>◇子どもの頃から同じ空間に色々な子がいる、受け入れてくれる場所が必要(分離教育をしない)</p> <p>◇音楽、ダンスのワークショップを通じ、障害を持つ人と市民と一緒に楽しめる場所づくりを。(特別扱いを受けない場所、機会の創出)</p>
障害者への理解を深めるために生涯学習活動でできること	<p>◆移動支援サービスを使って外出する場合でも、駐車場、多目的トイレのベッドなど、外出に必要な最低限の設備が整っている必要がある。</p> <p>◇特別支援学校などを卒業した後の活動(小平市・訪問カレッジ「希林館」など。)について知らせる媒体が必要。</p> <p>◆福祉の人材不足:生涯学習分野も含め、様々な分野からライトな支援を求める。生涯学習で培ったものを地域の支えあいに生かし、社協や福祉に緩やかにかかわってくれる人が増えてほしい。</p>
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	◆好きな時に行ける、参加のタイミングや時間の制約があまりないプログラムがほしい。
市への要望	<p>◆分野横断的な取組により、みんながつながれる機会や、様々な情報を享受できる仕組みが必要。</p> <p>◆障害がある人もない人も対等に「建設的対話」ができる場がほしい。</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	魁星	場所	第2庁舎3階小会議室
日時	令和7年10月20日(月) 午後1時00分～2時00分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターの講座は、人気集中し倍率が高く参加が難しい講座がある。 ・現状では活動内容の分野を超えた団体の連携などのつながりはない。(新町文化センターの連絡会) 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、けやき通りで開催される「よさこいin府中」に参加、当日飛び入り参加で踊る企画がある。 ・施設でのよさこいの指導や誰でも好きな時間に参加できる「よさこい広場」を実施した。 ・コーディネートしてくれる仕組みがあれば、指導や講座を開くことも可能である。 ・よさこいは隊列を組み踊るので、仕上げ練習にナイター設備のある校庭や公園を使用したい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
新規メンバーは毎年増えているか。入った後は皆さん続けて活動しているか。	●参加者の増減は多少ある。(毎年2～3人入会、子どもは学校の卒業や就職の機会です辞める人が出てくる。)
府中市民に向けた企画や継続している活動はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、けやき通りにて開催される「よさこいin府中」に参加しているが、当日に飛び入り参加で踊る企画がある。 ●スクラム(知的障害のある人の作業所施設)でよさこいを指導。(ひばりだわっしょいというチームを結成し、「よさこいin府中」にも出場してくれている。) ●よさこい広場:過去に誰でも自由に、好きな時間にきて踊る企画を実施したが、徐々に人が来なくなり終了した。 ●海外の人(インドネシア出身)が練習を見学に来た。 ◆依頼があれば施設で教えたり、講座を組んだりすることも可能なのでコーディネートしてくれる仕組みがあれば動きやすい。
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習センターで倍率が高く参加が難しい講座がある。(時間帯によって参加が集中。) ○周知が行き届いていない。よさこいブームが去った感じもある。 ○新町文化センターの連絡会:分野を超えた団体の連携などはない。(よさこいのグループ間では横のつながりはある。) ◆ニーズが見える形で届けば、相談にも乗れるし教えに行くことも可能。
市への要望	◆活動場所:お祭り前の練習に校庭を使用したい(ナイター設備)。

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市史談会	場所	第2庁舎3階小会議室
日時	令和7年10月20日(月) 午後2時15分～3時15分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の男性の興味を惹く講座があるとよい。(高齢男性が興味を持ちそうな活動団体はあるが、実際に参加するまでに至らない。) ・情報交換をするなど他団体との横のつながりが求められる。 ・地域活動への参加が少ない人(特に男性)に働きかける仕組みがあれば良い。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・史談会の YouTube チャンネルを開設し公開講座の動画を配信している。 ・不定期で史跡やまちあるきに行くイベントを実施している。 ・現在、学校との連携があまりできていない。人員が不足しているなどの理由で子どもたちへの歴史の継承はできていないが、高齢の方から昔の話を聞く機会などを設けたい。 ・歴史は幅が広いので研究したい時代などは人それぞれ違ってくる。一人でも研究はできるので、新たな入会者を得るのは難しい。 ・以前あった、会報を作成するための助成金を復活してほしい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
イベントや講座は市民が対象か。府中市を市外にアピールする機会はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ●年2回の公開講座の動画を史談会の YouTube チャンネルで公開している。 ○YouTube の視聴回数、視聴者数は少ない。 ●公開講座には市外(小金井の史談会)にも周知している。 ●不定期で史跡に行く、まちあるきに行くイベントを実施している。
子どもたちに府中市の歴史を学んでもらうため、学校との連携は考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●学校との連携はあまりできていない。 ◎次世代へ残す取組:高齢の方から昔の話を聞く機会は設けたい。 ○学校での講座を行うにも人員が足りない。
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢の男性の興味を惹く講座、団体はあっても参加する機会がない。 ○メンバーの歴史に対する趣向は様々なので、新たな入会者を得るのも難しい側面がある。 ◆他の団体の活動や会員集めの方法は知りたい。(横のつながり) ◆会報の助成金を復活してほしい。(現在は全て会が全額負担で発行) ◆YouTube の編集作業を外注しているので助成があれば理想的である。 ◇地域活動への参加が少ない人(特に男性)にはたらきかける仕組みがあればなおよい。

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	NPO 法人ママチャーズ	場所	第2庁舎3階小会議室
日時	令和7年10月20日(月) 午後3時30分～4時30分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の中高生や不登校(高校生)の子の居場所がない。(明るくて、無料で、Wi-Fiがある場所) ・講座を受講した後に動きやすいシステム(自分が学んだことを通じて、それを地域で生かせる仕組み)が必要。 ・自分の経験が誰かの生活にいきるような、みんなが相談・会話が出来る場。(オープンチャット) ・高齢者向けの講座が多いので、若い世代、子育て世代をターゲットにした講座も必要。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点は持たないが、学習支援、子ども食堂、イベントを行っている。設営を手伝ってもらうなど来場者を巻き込んで行っている。 ・子どもを集めて一緒に何かをやる場づくりを進めたい。 ・子育て世代のニーズを把握する実際に話を聞くことを心がけている。父親向けの交流会や子育ての悩みを分かち合う場が必要。子育て世代にはオンラインがかなり普及している。 ・情報発信で心がけていることは来てほしい人に直接会い、「誰が、どこで、何をやっているのか」ということを伝えて安心して参加してもらう。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
学習支援や居場所づくり事業の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●拠点は持っていないが、「府中市が居場所」というイメージで活動。イベントも居場所づくりである。 ●自主学習支援:毎回50名定員が埋まる。 ●学習支援と子ども食堂をセットで、自治会と協働でやっている。 ●イベントの設営なども来場者に手伝ってもらうことで成立している。 ●学校に行けなくても学習支援の場には来る子もいた。 ◎子どもが集まって一緒に何かをやる場づくりを進めたい。
子育て家庭の親を対象とした学び(子育てやしつけについてなど)の機会は必要だと思うか。	<ul style="list-style-type: none"> ●府中市でも幼稚園が減少し、ほとんどの園で年少クラス(2歳)を採用していることもあり、トイレトレーニングを家庭でしなくてもよい風潮になっている。 ◎ニーズの把握:子育て世代から実際に話を聞くことを心がけている。 ○育休を取る男性が増えて父親の参加も増えていて、父親向けの交流会の要望がある。 ◇子育てに関する悩みを分かち合う場、子育て世代向けの講座が必要。 ●小学校入学準備に関する内容の講義を実施:オンライン(ウェビナー)と現地での開催を併用して、200人程度がオンライン参加した。子育て世代にはオンラインはかなり普及している。 ●子育ての息抜き講座を実施:父子はベビーマッサージ教室に、母はヨガに参加。 ○高校生(義務教育を終えた)の不登校の子どもの居場所も課題。 ○府中市は中高生の居場所がない。文化センターの閉館が早い。 ◇明るくて、無料で、Wi-Fiがあれば中高生の放課後の居場所になる。

府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<p>◇講座を受講した後に動きやすいシステム(自分が学んだことを通じて、それを地域で生かせる仕組み)が必要。</p> <p>◇オープンチャットのように、自分の経験が誰かの生活にいけるような、相談する場があるだけでも生涯学習のようなことができるのではないか。</p> <p>◇若い世代、子育て世代の琴線に触れるテーマの講座があれば参加する人は多いのではないか。(スポーツ系以外は年配向けに感じる。)</p> <p>◎情報発信で心がけていること:来てほしい人に直接会う。(誰が、どこで、何をやっているのかということが分かると安心して参加ができる。)</p>
----------------------------	--

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市スポーツ推進委員会	場所	第2庁舎3階会議室
日時	令和7年10月24日(金) 午前9時30分～10時30分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習に取り組む「きっかけ」づくりと入り込むまでのフォローが重要。 ・行政の課を超えた連携を求める。(子ども向けの講座に親や高齢者も一緒に参加できる企画) ・(ふちゅうコミスポの)担い手不足、指導者の高齢化。 ・スポーツはスポーツ、文化は文化という区分ではなく「生涯学習」をキーワードに連携も必要。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・YouTubeに動画を投稿したりなどオンラインの活用はしてみたい。 ・体験講座では新規の方はあまり来ない印象。決まった日時だと通い続けるのは難しい人もいる。 ・イベントをどう団体の活動へとつなげていくのかを考える。 ・市民体育館の市民開放に来る人が固定化している。 ・団体から「活動場所がない」という問い合わせが多い。 ・健康推進課と連携し、「健康スポーツ」も取り入れ多面的に活動したい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
働く世代のスポーツ活動を活性化するための提案はあるか	<ul style="list-style-type: none"> ●みんなのスポーツ day は普段来ない地域体育館に来てもらうことも目的としていたが、大人が単独で来ることはあまりない。 ●ウォーキングなど個のスポーツが流行。(集団競技は集まりにくい。) ○ふちゅうコミスポ:リーダーとボランティアがあるが、今は若い人が入ってこないの、指導者制度の充実が求められる。高齢化が課題。 ◎コロナが明けて対面の活動が多くなったが、YouTubeに動画を投稿したりなどオンラインの活用はしてみたい。
スポーツを楽しく生活に取り入れ、継続していくには、どのような取組が必要か。	<ul style="list-style-type: none"> ●市のイベント(トップ選手を呼ぶ、けやき並木やフォーリスでふらっと立ち寄れるイベント)でブースを出して活動参加のきっかけづくりをしている。 ●地域体育館などを活用した体験講座に新規の方はあまり来ない印象がある。日にちが決まっていて通い続けるのは難しい人もいる。 ●府中は近隣の市町村に比べて施設は充実している。 ○イベントをどう団体の活動につなげるかを考える必要がある。 ○市民体育館の市民開放なども、来る人は固定化してしまっている。 ○個人よりは団体から「活動場所がない」という問い合わせが多い。
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ◇「きっかけ」づくりと入り込むまでのフォローが重要 ◇健康づくりとの連携:健康推進課から結果をもらって、対象者に講座や団体などを案内することもできるのではないか。 ◆市の各課の連携を求める。子ども向けの講座に親や高齢者も一緒に参加するような企画ができれば良い。
部活動の地域移行について	<ul style="list-style-type: none"> ●東京都ではスポーツ推進委員が先頭に立ってやるように謳っているが、府中では特にやっていない。(少子化で部活動が成立しない状況に至っていない。)
文化生涯学習課にたいして	<ul style="list-style-type: none"> ◆「スポーツも文化だ」:スポーツはスポーツ、文化は文化という区分ではなく生涯学習というキーワードをもとに、色々なものがつながってほしい。 ◎「健康スポーツ」も取り入れ、多面的に活動したい。

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市総合型地域クラブすたあと	場所	第2庁舎3階会議室
日時	令和7年10月24日(金) 午前10時45分~11時45分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自主団体の情報交換会など、団体が集まって発信する機会づくりと、情報発信の手助けが必要。(HPやInstagramなどからのアプローチ。) ・外出のついでに軽くスポーツに触れあえる機会の創出。(参加のきっかけづくり) ・総合型地域スポーツクラブは中学校区ごとにあるのが理想。 ・文化活動は材料費もかかるため施設利用料が負担となっている。(利用料の値下げを希望。) ・スポーツ活動の場所と機会を増やすため、学校の体育館開放の時間延長を望む。 ・学校施設は冬場に暖房がないのでケガにつながりかねない。お金を払ってでも暖房を使いたい。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・会員向けには、大学生などの競技者を呼んで講座やイベントを開催している。夏休みには非会員も参加可能な特別企画を実施している。 ・クラブとしては、小学生の頃の参加者が大学生になって指導者として戻ってくるという理想的な循環ができています。 ・指導者は有資格者のみを有償で採用しており、資格取得のための資金の支援も実施している。大学生はサポートスタッフとして参加している。 ・文化活動については、小さい頃から指先をつかうモノづくりの機会や保護者向けの活動として実施してみたい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
クラブの仕組み、各種目への参加条件や誰でも参加できる単発のイベントの実施に関して	<ul style="list-style-type: none"> ●クラブの参加条件:まず会員になってもらうこと。 ●小・中学生とPTAの親をターゲットに絞った団体である。 ●会員向けに、すたあとで取り扱っていない種目に触れてもらうため、大学生などの競技者を呼んで講座やイベントを開催。 ●非会員も参加可能なイベントとして夏休みに特別企画を実施、親子バドミントンやクラブ交流会を開催。 ○総合型地域クラブは本来中学校区ごとにあるのが理想。
新たな指導者の発掘やスタッフの育成について	<ul style="list-style-type: none"> ●小学生の頃の参加者が大学生になって指導者として戻ってくる。 ●指導者の資格取得のための資金の支援も実施。 ◎10年後あたりで次の世代へ引き継ぐことができるという考えはある。いい循環ができてきている。 ●指導者は有資格者のみを有償で採用。大学生はサポートスタッフとして参加。 ●会員や指導者の連絡は代表一人で回している。各カテゴリのオープンチャットで管理している。
働いている世代向けの働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ●すたあとは各地域で活動場所があり、親の当番がないことも重宝されている。 ●人気種目(バドミントン、新体操)などは府中市全域、他市からも参加。 ◆学校の体育館開放の時間を延ばすべき。(場所と機会を増やす観点から) ◆府中市は施設が多いが、社会教育施設の利用料が高い。(テニスコートや体育館は安い)

未就学児に対する取組について	<p>●これまで未就学児を対象とする講座を年に数回、3クールくらい実施していたが、最近参加者の減少により開催していない。</p> <p>◎要望があれば実施したい。</p>
文化活動に関して	<p>●コロナ禍になるまでは文化活動の講座を実施。(サンドアートなど会員が講師として活動。)</p> <p>◎小さいころから指先をつかうモノづくりの機会を増やしたい。</p> <p>○会場が取りづらく、ここ2～3年実施できていない。</p> <p>◎保護者向けの活動として実施してみたい。</p>
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<p>◇新規の方を取り込むきっかけづくり:けやき並木やルシーニュなど、外に出たついでに軽くスポーツに触れあえる機会の創出を。</p> <p>◇自主団体が目に触れる、出会える機会の創出や情報発信の手助けが必要:HPやインスタなどのネットからのアプローチがあるとよい。</p> <p>○発表の場所がない。自主団体の情報交換会など、団体が集まって発信する機会が必要。</p>
市への要望	<p>◆学校施設に熱中症対策の冷房は整備されているが、冬場は暖房がないのでケガにつながりかねない。お金を払ってでも暖房を使いたい。</p> <p>◆文化施設の利用料を下げしてほしい。文化活動をするには施設利用料だけでなく材料費もかかる。</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市民交響楽団	場所	第2庁舎3階会議室
日時	令和7年10月24日(金) 午後1時00分～2時00分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をいかに広く伝えることができるかが重要。 ・練習場所の確保が大変。(音出し禁止の場所が多い) ・知らない人への情報の届け方、ニーズがある人へのアプローチが課題。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・練習場所は1年前から担当の人が確保しているが、生涯学習センターの音楽練習のできる小ホールは取りにくい。 ・アマチュアオーケストラはどこも練習場所、団員の年齢層、集客の課題を抱えている。 ・主催事業をする場合の支援が欲しい。 ・府中駅などで目に入るような効果的な周知をしたい。(市のHPや広報ふちゅうでは届かない) ・学校や幼稚園、高齢者施設などに出張で演奏に行く取組への助成制度や交流先を紹介してもらう制度があれば活動が広がる。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
楽団員の年齢層や新規の入団状況	<ul style="list-style-type: none"> ●60代は定年を迎えたタイミングなどで新規入会。 ●20～40代は子育てが終わったタイミング、学生オーケストラ活動が終わる就職が決まったタイミングなどで新規入会。 ●学生時代に各パートの楽器を触っていた人が多い。
練習場所、練習時間をあわせることで苦勞すること	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的には日曜午前に合奏練習、午後からは有志でパート練習。 ●練習会場を抑える担当があり、1年前から場所の確保をしている。 ●抽選で漏れると調布の施設で練習をすることもある。 ○生涯学習センターは日曜午前にある程度の広さで音楽練習のできる小ホールが取れない。 ○昔は文化センターが使えたが、今は音出し禁止のため使えていない。
類似団体との交流やアマチュアオーケストラ共通の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●学生オケ、その他の類似の市民団体はあまり交流がない。 ○どのアマチュアオケも練習場所、年齢層、集客の課題を抱えている。 ○クラシックに対する興味のある人が減ってきている感覚はある。 ○団員の確保より集客のほうに課題。(知らない人に向けた届け方、本当は聞きたいが、聞いたことがない人の引き込み方。)
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> ○広報、情報をいかに広く伝えることができるかが重要。 ◇元気でないと学習はできないので、まずは健康でいることが大事ではないか。
市への要望	<ul style="list-style-type: none"> ◆市の芸術文化祭に参加する際は助成があるが、それ以外の子ども向けファミリーコンサート(参加無料)など主催事業をする場合の支援が欲しい。 ◆若い人に向けた周知として、駅などで目に入るような効果的な周知をしたい。(市のHPや広報ふちゅうでは届かない) ◆今後も第九を継続していきたい。⇒市からの助成(フライヤーに協賛の名前入れるなど)があると良い。 ◆学校や幼稚園、高齢者施設などに出張で演奏に行けるような取組への助成制度や交流先を紹介してもらう制度があれば活動が広がる。

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	NPO 法人府中かんきょう市民の会	場所	第2庁舎3階会議室
日時	令和7年10月24日(金) 午後2時15分～3時15分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・働いていた時に身につけた知識を生かす場が必要。 ・SNSの活用や情報発信の強化。 ・大人数の団体が使うには狭い部屋も多く、広めの部屋も必要。(生涯学習センターなど) ・「学び返し」というのは個人対個人よりは大人数の団体での活動に合う概念なのではないか。 ・現計画の3つの重点政策の到達点、未達点の十分な検証が必要である。 ・市内の豊富な生涯学習関連施設(文化センター、プラッツ、博物館、美術館など)の連携強化。 ・生涯学習ファシリテーターやサポーターの位置づけについて明確化する。 ・市民活動へと広がるリーダー研修の実施、団体の困りごと解消する機会の創出、センター運営委員会の設置を求める。 ・外に発信する機会やシンポジウムなどで発表する機会が必要なのではないか。 ・文化センターと生涯学習センターが複合化した時の存在意義を改めて考え、管理主体の連携をうまく進めていくことが必要。新しい施設は個人よりも団体が活動できる施設にしてほしい。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・会の活動を通じて緑を増やすことを目標としている。地道に日常的に生態系の保全や環境の改善について呼びかけを行っていくことが重要。 ・会として、環境保全活動センターのあり方について、庁内の各課や色々な団体や分野と関わるセンターをつくらうという話をしている。 ・農園塾で栽培したものはこども食堂で提供、子どもも収穫を手伝っていて、教育になっている。 ・農工大や外語大などの大学と共に学びあえる、市民に対して学び返しができるのが理想である。 ・団体としては、プラッツとの協働を長くやっていて、悠学の会とも少し連携があるので、横の連携ができるような場を作ってほしい。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
近年の気候の変化で影響が出ていること、市民レベルでできる対策について	<ul style="list-style-type: none"> ●熱中症の危険は高まっている。活動にあたり警戒も欠かさない。 ●猛暑の影響で今年は作物の実りが良くない。 ○市民の目が環境課題に向いてきているような実感はあまりない。 ◎会の活動を通じて緑を増やすことは目標。 ◎マイクロプラスチックの削減、プラスチックは使わない。 ◆SDGsは横文字ということもあって分かりづらい。課題がぼやけているのではないか。 ◇地道に日常的に生態系の保全や環境の改善について呼びかけを行っていくことが重要。
自然体験学習など活動への参加状況について	<ul style="list-style-type: none"> ●年4回の自然体験学習は小学生と親と一緒に学ぶ機会となっており、子どもより親のほうが夢中になっていることが多い。 ●府中市の「まちなかきさらら」で緑道などの清掃活動や保全活動など、市民にとっては市が後ろにいる事業なので参加しやすい

	<p>●農園塾で栽培したものはこども食堂で提供(年間 23 回実施)、子どもも収穫を手伝っていて、教育になっている。</p> <p>○働いていた時に身につけた知識を生かす場を求める声がある。</p> <p>◎農工大や外語大などの大学と共に学びあえる、市民に対して学び返しができるのが理想。</p>
府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと	<p>◇会として、環境保全活動センターのあり方について市内の各課や色々な団体や分野と関わるセンターをつくろうという話をしている。</p> <p>◇「学び返し」というのは個人対個人というよりは多人数の団体での活動に合う概念なのではないか。</p> <p>◇生涯学習センターなどは、人数が多い団体が使うには窮屈な部屋も多いので、団体活動に使いやすい室の設えがあればよいと思う。</p>
市への要望	<p>◆現計画の 3 つの重点政策の到達点、未達点の十分な検証が必要</p> <p>◆市内の豊富な生涯学習関連施設(文化センター、プラッツ、博物館、美術館など)の連携強化を求める。</p> <p>◆団体としては、プラッツとの協働を長くやっていて、悠学の会とも少し連携があるので、横の連携ができるような場を作ってほしい。他の施設との連携もあると市民にとって良いのではないか。</p> <p>◆広報紙面だけでなく SNS デジタル連携の強化を求める。</p> <p>◆生涯学習ファシリテーターやサポーターの位置づけについて明確化。</p> <p>◆市民活動へと広がるリーダー研修の実施を求める。</p> <p>◆団体の困りごと解消する機会の創出、センター運営委員会の設置を求める。</p> <p>○SNSの活用や情報発信の強化などは重要な課題。</p> <p>◇生涯学習センターの移転や施設の在り方などについては市民参加で行うべきなのではないか。新しい施設は個人よりも団体が活動できる施設にしてほしい。</p> <p>◇文化センターと生涯学習センターが複合化した時の存在意義を改めて考え管理主体の連携をうまく進めていくことが必要。</p> <p>◇施設内にとどめず、外に発信する機会やシンポジウムなどで発表する機会が必要なのではないか。</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要<個別ヒアリング>

団体名	府中市多文化共生センターDIVE	場所	第2庁舎3階会議室
日時	令和7年10月24日(金) 午後3時30分～4時30分		
本市の生涯学習の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紅葉丘文化センターでは幼児用の椅子で小中学生が勉強しており、備品や環境の整備が必要。 ・子どもが部活動以外の遊びや趣味の活動ができる場所がない、子どもでも活動場所を借りやすいシステムづくりも重要。 ・市のメルマガは多言語対応していない。DIVEを通じた市から外国人への情報発信の仕組みはあるが、これまでに依頼は一度もないので、DIVEの周知が望まれる。 		
団体のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人は施設について知らない人が多く、引きこもりがちになる。 ・日本文化を学びたい、日本語を学ぶ機会を求める外国人は多い。 ・日本語講師の有資格者から教えてもらうような長期の講座、着付けや茶道などの文化の体験講座、母親向けの日本語講座などが必要ではないか。 ・外国人の子どもは放課後の学習が不足している。また、日本語学習と母語学習のバランスも重要。 ・フチャールでの日本語講座以外あまりないので、生涯学習センターでも日本語講座をやってもよい。外国人にもわかるような「やさしい日本語」を学んでもらう講座の実施。 ・外国人と日本人が学ぶ場、相互に交流する機会があるべき。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言
イベントや講座への外国人の方の参加の状況	<ul style="list-style-type: none"> ●交流サロンのテーマや対象とするコミュニティによって参加状況にはばらつきがある。(毎週土曜の交流サロンは0人～5、6人の参加。) ●スポーツイベントは日本人含めて30人集客し、好評だった。 ●外国人は施設について知らない人が多く、引きこもりがちになる。 ○日本文化を学びたい、日本語を学ぶ機会を求める外国人は多い。 ●講座やイベントの開催日時、時間帯は働き世代が夜や休日、親子連れは昼間の参加が多い。
外国の方を対象にした生涯学習の講座やイベントの提案	<ul style="list-style-type: none"> ◇日本語講師の有資格者から教えてもらえる長期の講座などがあってもよい。 ◇着付けや茶道などの文化の体験講座などもあったほうが良い。 ◇文化の体験講座では市民団体とのコラボも期待できる。 ◇母親向けの日本語講座なども必要。 ○父親や子供と母親の日本語レベルに差が生じることで家族間の関係が悪くなるということも多い。 ◇子どもは日本語学習と母語学習のバランスも重要。 ◆学校教育でも日本語指導含め支援員を手厚くしてほしい。 ◇外国人にもわかるような「やさしい日本語」を学んでもらう講座(優しい日本語講座)なども実施されるとよい。 ◇フチャールで日本語講座をやっているが、それ以外あまりないので、生涯学習センターでも日本語講座をやってもよい。 ◇外国人と日本人が学ぶ場、相互に交流する機会があるべき。

<p>外国の方に向けた情報発信 や地域との連携など</p>	<p>○府中市のメルマガは多言語対応していない。</p> <p>○DIVE を通じた市から外国人への情報発信の仕組みはあるが、これまでに依頼は一度もない。</p> <p>●地域活動の参加も兼ねて、DIVE 経由で防災まちあるきに参加。</p> <p>●災害時の外国語でのアナウンスなどの文章も担当課と共同で現在制作中。</p> <p>○高齢者の介護、夫婦間のトラブルなどの解決はケアできていない。</p> <p>○長く住んでいる人でも同じ言語で相談ができる人が少ない。</p>
<p>府中市の生涯学習を推進する ために重点的に取り組む こと</p>	<p>○外国人の子どもは放課後の学習が足りていないので紅葉丘文化センターの遊戯室を使用しているが、幼児用の椅子を使って小中学生が勉強するなど、備品や環境の課題がある。(学校で完結する方がより良い。)</p> <p>○音楽やモノづくりなど、部活動以外の遊びや趣味の活動ができる場所がない。(プラッツのフリースペースは勉強のみで、勉強以外の色々な活動ができる場所がない。)</p> <p>◇子どもたちが活動場所を借りやすいシステムづくりも重要。</p> <p>◆DIVE をもっと周知してほしい。</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要 <グループヒアリング>

団体名	エッチングの会 府中囲碁クラブ・こもく会 リリアーレ 生涯学習センター指定管理者	場 所	生涯学習センター
日 時	令和7年10月 22 日(水) 午前 10 時 00 分～11 時 30 分		
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターを市民の学びの拠点とするため、仮移転期を含む活動環境やデジタル環境の整備、アクセス改善、情報発信の強化が求められる。 ・若い世代の参入や活動のきっかけ・交流機会づくり、誰もが参加しやすい講座が求められる。 ・府中の魅力を発信し市内外の人が集う新たな拠点づくりが期待される。 		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言	関連する基本施策
生涯学習センターを、より市民の学びの拠点としていくために必要なこと (例:人、事業、情報、仕組み、連携などの観点で)	<p>【人】</p> <p>○会員の新陳代謝がなく高齢化している。</p> <p>【施設】</p> <p>○備品の保管場所、防音対策、版画の廃液処理など、仮移転期間中の活動環境に不安がある。</p> <p>○和室で立ったり座ったりするのが高齢者には使いづらく、花や茶などの団体活動も減少傾向。(掘ごたつが望まれる)</p> <p>○予約システムや会計機の改善。(千円札しか使えないなど。)</p> <p>○施設のアクセス面の改善。(ちゅうバスの本数、開館時間など。)</p> <p>◇デジタルで活動ができる機器などの整備。(道具の保管に関する課題の改善、活動のオンライン化に繋がる。)</p> <p>【情報・仕組み】</p> <p>○活動や情報発信には、関心を引くきっかけづくりが必要。(例:囲碁は漫画で人気再燃。)</p> <p>◆イベントの宣伝が十分でなく、開催直前にポスター提示のみのケースがある。</p> <p>◇魅力的な講師・指導者を招聘する、人数制限のない誰でも参加できる講座を設けるなど、参加機会の拡大が望まれる。</p>	<p>基本施策2</p> <p>基本施策3・ 基本施策1</p> <p>基本施策3・ 基本施策1</p>
5年後、府中の“学び”はどんな姿になっていたらいいと思うか	<p>【新生涯学習センター】</p> <p>◎府中の魅力やポテンシャルを発信できる施設に。市内だけでなく、京王線沿線など周辺地域の住民にも来てもらえるような拠点を目指す。</p> <p>◇カフェなど、思わず立ち寄りたくなるような、その場に行きたくなるような魅力ある空間づくりを望む。(例:武蔵野プレイス)</p> <p>◇「生涯学習」は老後のイメージがあるので、新たなセンターの名称は、市民による公募を検討してはどうか。</p> <p>◇和室をつくるときには、座りやすい掘りごたつはできないか。</p> <p>【学びのきっかけづくり】</p> <p>○新たに学びを始めたい、興味を持ちたい人のための交流機会づくりが必要。潜在的に他の活動に参加したい人は多く、生涯学習フェスティバルでは来場者対応に追われ交流が十分に図れないのが課題。</p> <p>◇学びを始める・広まるきっかけとしてのワークショップや展示など体験イベントの開催が望まれる。</p>	<p>基本施策3・ 基本施策1</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要 <グループヒアリング>

団体名	科学体験クラブ府中 府中市観光ボランティアの会 ふちゅう道しるべ プラッツ指定管理者	場所	市民活動センター プラッツ
日時	令和7年10月22日(水) 午後1時00分～2時30分		
まとめ	<p>・プラッツの特徴・アクセス性をいかし、参加しやすい活動時間設定・潜在的に興味関心を持つ人への働きかけが必要。また、情報発信の工夫により参加機会を広げていくことが重要。</p> <p>・協働として、学びを伝える世代間交流、学校や行政・企業との連携を強化していくことが重要。</p>		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言	関連する基本施策
市民活動の場であるプラッツを通じて、人と人、活動と活動がもっと“つながり・学び合う”ためには、どんなことが必要か (例:人、事業、情報、仕組み、連携などの観点で)	<p>【人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会員不足というより、会員の高齢化が共通の傾向。 ○会員募集は年1回の広報だけでは難しく、別の募集手段が必要。 ○子育て世代が参加するには、活動の曜日や時間設定に配慮が必要。(土日や平日夕方以降だと参加ができるが、平日昼間だと難しい。) ○関心はあるが、どうしたらよいか考えている潜在的な人への働きかけが大切。プラッツでの活動に興味を持ってもどこに聞けばよいかわからない。 <p>【活動場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数で打合せや備品を置いたりできる場所(拠点)を求めている。 ●プラッツはアクセス性が良い。他市からも来ている。 <p>【情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●プラ net(ポータルサイト)では500以上の団体情報を掲載し、関心のある分野から検索できる仕組みとなっている。 ○プラ net の認知度が低く、団体側の活用も進んでいない。 ◇情報発信の方法として、目に付きやすい場所の掲示やインターネット、活動会場内などでの周知が有効。 ◆学校や行政での掲示・配布は手続きが複雑で、宣伝の自由度が低いため、許可手続きの簡略化や運用の一元化が望まれる。 ●自治会回覧を依頼し、参加者増など、周知の成功例がある。(ただし、チラシの印刷代や労力がかかる。) 	<p>基本施策2</p> <p>基本施策1</p> <p>基本施策3</p> <p>基本施策3</p>
5年後、府中の“学び”はどんな姿になっていたらいと思うか	<p>【協働・連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎府中の高校や大学、または部活動等の生徒との連携を通じて、子どもや若い世代との交流機会を増やしていければ良い。(現在はあまりない。) ◎世代間の関わりは刺激があって良いので、もっと増やしていきたい。学ぶだけでなく、伝えていく楽しさも体験できる環境が期待される。 ◎団体だけでなく、行政や企業と顔の見える関係をつくるため、プラッツで交流会を実施予定。事前に緩やかなつながりがあることで、協働のハードルが下がる。 <p>【講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆働く世代や多様な方が参加しやすい夜間・土日の講座開催が望まれる。 <p>【府中全体として】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇外からみると府中の認知度は低く、東京のイメージも薄い。「国府」としての魅力を発信し、イメージアップを図ることが望まれる。 	<p>基本施策2</p> <p>基本施策1</p> <p>基本施策3</p>

第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング結果の概要 <グループヒアリング>

団体名	多摩友の会(府中方面) てびねり会 練功十八法の会 中央文化センター職員	場 所	中央文化センター
日 時	令和7年10月 22 日(水) 午後 3 時 15 分~4 時 45 分		
まとめ	<p>・中央文化センターでは、団体の高齢化や会員減少への対応、若い世代への関心喚起が課題となっており、活動の参加機会や情報発信の工夫、他団体との交流機会の創出が求められる。</p> <p>・今後は交流ができる居場所の創出や、中央文化センターと生涯学習センターの統合による団体間交流の拡大など、地域全体の学びの拠点としての機能強化が期待される。</p>		

質問	主な御意見 ●現況/○課題/◎方針・目標/◆要望・苦言/◇提案・提言	関連する基本施策
中央文化センターでの文化・芸術活動を通じて、市民の“学び”をさらに広げていくために、どのようなことが必要か (例:人、事業、情報、仕組み、連携などの観点で)	<p>【人】 ○中央文化センターの団体数は年々減、他文化センターに比べると登録団体は多く稼働率も高いが、どの団体も高齢化している。 ○活動の存続には、文化センターに来て、実際の活動を見てもらう機会の創出が課題となる。 ○(会員減により)少人数でも団体が継続できる体制が望まれる。現状では、活動を続けたい人は類似団体と合併せざるを得ない可能性がある。 ◆社会教育関係団体の人数要件を見直ししてほしい。 ○若い人への関心喚起のPRや工夫が求められるが、なかなか難しい。市の講座みたいな形で、開放的な場所での体験会ができるとうい。</p> <p>【施設】 ◆日中は児童館のため利用できないが、工作室を利用したい。</p> <p>【情報発信】 ○文化生涯学習課の団体一覧はネット掲載されているが検索しづらい。作成者不明の検索サイトもあるが、一部情報に誤りがある。 ●窓口では一覧表を掲載している。その他チラシの配布や広報誌への掲載などを実施。 ◇自主グループ連絡会では事務連絡のみで、他団体の活動が把握しづらい。文化祭への参加などで交流の機会を広げることが期待される。</p> <p>【学びの在り方】 ●学習スタイルは変化しつつあり、誰かに教わる形ではなく、自ら学びに向かうスタイルになっている。</p>	<p>基本施策2・ 基本施策1</p> <p>基本施策3</p> <p>基本施策3</p> <p>基本施策1</p>
5年後、府中の“学び”はどんな姿になっていたらいと思うか	<p>【居場所の創出】 ◇静かな場所だけでなく、騒いだりみんなで話ができる居場所づくりが望まれる。大人にも居場所が必要。</p> <p>【中央学習センター】 ○中央文化センターは広域から来るため、地域密着性は低く感じる。 ◎中央文化センターと生涯学習センターの統合により、団体間の新たな交流が期待される。</p>	<p>基本施策3</p> <p>基本施策3</p>

事前アンケート・ヒアリングアンケート

1 ヒアリングアンケート とりまとめ

(1) 事前ヒアリングアンケートからのご意見（個別・グループヒアリング対象団体）

※主に市への要望をとりまとめています。

【市への要望】

○学習機会の確保

- ・市主催の学習会や講演会等の積極的な開催が求められている。

○共生社会の実現

- ・障害のある人もない人も、誰もが地域で安心して暮らし続けられるよう、施設や制度、人材、支援の仕組みの充実を図り、誰一人取り残さない環境づくりが求められている。

○情報発信の強化

- ・市の広報誌やSNS、駅など人が集まる場での発信機会をを広げ、団体活動や学びの情報を必要とする市民に確実に届ける仕組みの整備が求められている。また、団体同士の情報を共有できる環境づくりも必要。
- ・庁内へのDIVEのさらなる周知とともに、通訳依頼の活用の推進、また「やさしい日本語」での対応など、外国人・高齢者・障害者にも分かりやすい情報発信の強化が求められている。
- ・第4次計画について、どういう計画づくりをしていくかを共有することが重要。

○連携・協働の推進

- ・市や関係機関の協力による安定的な支援と協働の継続が望まれている。また、市内各団体との協働事業を推進し、市民の参加につながる取組を広げていくことが重要。
- ・不登校等の子どもを支えるには保護者の支援が重要であり、市民活動だけでは限界があるため行政との連携強化が必要。
- ・外国人児童・生徒への放課後の日本語支援や伴走支援体制を拡充するとともにスクールソーシャルワーカーとDIVEの連携促進が求められている。
- ・行政との連携強化として、支援現場の課題を共有できる定期的な対話の場が求められている。

○活動支援

- ・市民活動団体が継続して活動に取り組めるよう、単年度助成にとどまらない中長期的な支援体制や、中間支援的な仕組みの整備が求められている。また、例年活動ではない新規事業に挑戦しやすい柔軟な支援や予算措置が求められている。
- ・会員が減少した団体でも活動を続けられる制度や、講演会等の自主事業へのバックアップなど、団体運営を支える支援策の充実が望まれている。
- ・子育て会議をはじめとした地域ネットワーク機能のための予算・体制整備が求められている。

○活動場所への要望

- ・設備の維持管理（版画室の利用ルール整備、ハンドベルのメンテナンス）、備品の保管場所（ロッカー）の確保など、継続的に安心して活動できる環境づくりが求められている。

- ・小規模団体も利用しやすい料金・予約制度（プラッツの優先予約制度など）、空き時間の有効活用（工作室の当日利用）など柔軟で利用しやすい制度が望まれている。
- ・情報交換できる打合せスペースの確保や、学校施設利用時の冬季暖房使用など、快適で安全に活動できる環境整備が必要とされている。

○新生涯学習センターについて

- ・生涯学習センターの移転・複合化新設に際しては、アトリエ施設の引っ越しが最小で済むように配慮し、市民の学習活動への影響を最小限にすることが求められており、市民の継続的な学習活動が途切れないう、運営面での丁寧な調整と支援が期待される。
- ・企画・設計において、利用団体との意見交換・ニーズ把握の場を設けることが求められている。

(2) 第4次府中市生涯学習推進計画 審議会委員所属団体ヒアリングアンケートからのご意見

※主に市への要望、生涯学習推進のため重点的に取り組むことをとりまとめています。

【市への要望】

○情報発信・共有について

- ・市広報誌やHPを活用し、芸文協全体や各団体の活動、市民文化祭の概要などを幅広く周知するとともに、デジタル活用への意識向上を図る企画や情報発信も求められている。
- ・生涯学習センターの目標、楽しさ・大切さを市民に伝える広報活動の強化が求められている。
- ・事業運営や協力支援の視点から、行政と関係団体との情報共有・連携を深め、より効果的な協力体制を構築することが求められている。

○活動支援（助成・制度の柔軟化）

- ・家庭教育事業は市の委託事業として予算を受けているが、用途の制約が多く、計画通りの事業実施が難しい状況。時代や環境に応じて柔軟に活用できる制度に見直し、より良い学びの場づくりを進めることが求められている。

○講座・プログラム制度等

- ・生涯学習ファシリテーター制度や府中カレッジ 100、出前講座など、既存制度の活用が十分でないことや時代に合わないものが増えていることから、新たな視点での再編・改善が求められている。
- ・高齢者を含む市民のデジタルリテラシー向上のため、デジタル・ディバイド対策や、IT教育環境の整備やスマホ貸出などのインフラ整備が求められている。
- ・教養講座の充実や、人生100年時代による高齢者の健康維持・交流促進の講座を充実させるとともに、受講料の低廉化など参加のハードルを下げることを望まれている。

○生涯学習センター

- ・生涯学習振興を民間（指定管理者）に委ねるだけでなく、市自らが責任をもって施策を実行するとともに、生涯学習センター運営への市民の参画や意見反映の仕組みを整えることが求められている。
- ・生涯学習センター解体後のソフト・ハードの施策推進体制や、市政における生涯学習の位置づけ（社会教育主事の配置など）を明確化する必要がある。
- ・仮移転や新複合施設への移転の際に、いつでも自由に集まれる「ボランティア室」やパソコン講座が可能な環境を確保することが求められている。

○学び返しについて

- ・「学び返し」を施策の中心とするなら、自然発生に頼らず、積極的に推進するための仕組みづくりが必要。
- ・高齢者が持つ知識や経験を地域社会に還元する（学び返し）ためには、学習センターの講座・講演会への参加促進や、生涯学習ボランティア団体への参加支援が必要である。
- ・生涯学習ボランティアを見守り支援するとともに、デジタル普及ボランティアの募集や運用など、具体的な活動へのサポート体制の強化が求められている。

【府中市の生涯学習を推進するために重点的に取り組むこと】

○生涯学習全般について

- ・「生涯学習」という言葉や考え方が市民に十分定着しておらず、個人の日常的な身近な活動も含めて生涯学習に通じるという考えを、継続的にあらゆる年齢層・全市民に広く浸透させることが必要。
- ・府中市の生涯学習として、マイナーなジャンルも含めた多様な学びの機会や受け皿を整備することが重要である。

○情報発信について

- ・広報において、アスリートなど市民の関心を引きやすい人物を活用するなど、市民が参加しやすくなる工夫が求められている。

○講座・プログラム制度等

- ・高齢化社会に対応して、市内施設の利用料無料化（一部実施済み）などの支援を通じて、高齢者の参加型学習の機会を増やすことが求められている。

※市の要望との重複意見は記載を割愛。

◆第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング(個別ヒアリング) 事前アンケート【10月20日実施団体】

	団体名称	会員数	主な活動場所	活動日	これまでの活動を通しての成果を教えてください	現在の活動で課題があれば教えてください	今後の活動で目標があれば教えてください	市に対しての要望があれば教えてください
①	NPO法人 アーティスト・コレクティブ・フチュウ	正会員 13名 賛助会員 50名	Light Up Lobby (ホテルケヤキゲート2Fロビー直結)	不定期	アートと社会を繋ぐプロジェクトを通して、今まで出会わなかった異なる人々のフラットな繋がりを育んでいます。アーティスト、地域の人々、教育/福祉施設、企業、府中市や東京都の自治体など、世代を超えた創造的な協働を実現できました。日常の当たり前を疑い、新たな視点で身の回りの生活を見つめ直せる機会を増やしています。	メンバーは、本業をこなしながら副業として参画しているだけに、常に時間が足りないこと。それにより、興味深い活動成果の数々が広報しきれいていません。また、活動資金の確保を常に懸念する必要があります。	「だれもが表現できるまち」を目標にしてきました。「表現する人」の環境づくりのみならず、「表現を受け止める人」をより豊かにしていくことも大事だと感じています。市民の「寛容性」と「批評性」が育まれることにより、自由な表現、そして共生社会の実現に近づくのではないかと思います。それに伴い、アートに関する認識を拡張したいです。美術的な作品を鑑賞するだけでなく、ものの見方や認識を変える力があるというその価値が認められ、アートにもっと時間やお金が投資される社会になるとよいと思います。	協働事業に始まり、あすなる学級や市民文化の日、東京都との連携事業「共生社会」のプロジェクトも一緒に、信頼関係が深まっていると感じています。今後もぜひ、継続的に学びを深め、開発していくための予算をつけていただけるとありがたいです。
②	府中市肢体不自由児者父母の会	80名	生涯学習センター	各月 第二金曜日	重度心身障害児者の家族として障害当事者や家族の現状やニーズを行政等に伝え続けることにより、一歩ずつ制度や環境が整い、生きやすくなってきたこと。	これまでの活動形態の維持が難しくなってきたこと。活動の担い手が減ってきたこと。若い世代の入会者が激減していること。	まだまだ一般的には知られていない重度心身障害児者の存在(あなたの町にも住んでいる)ことを広く知ってもらい、当り前に共生でき、最後まで安心して暮らせるまちに府中がなるように活動していきたいです。	障害のある人もない人も最後まで安心して暮らし続けることができるよう、施設、制度、人材、しくみ等の充実をお願いします。
③	魁星	18名	本宿小学校、新町文化センターなど	隔週金曜日の19:00~21:00	よさこい鳴子踊りを習得し、市内外のお祭りやイベントに参加することによってメンバー間の交流、親睦が深まり楽しく活動できている。多くの人に親しまれる舞踊なので高齢者施設での慰問演舞や小学校の周年イベントなどにも呼んでいただけて地域にも貢献できている	出来ればもう少しメンバーを増やしたい	結成してもう20年になるので少しずつ目標は叶えてきたように思います。毎年、メンバーの出入りはあるので(転勤や受験など)できれば今後も長く続けられるようメンバー数の維持と毎年の活動も地道に継続できたら…と思っています	特にはありません
④	府中市史談会	84名	中央文化センター、郷土の森博物館 他	決まっていない。1~2か月に1回程度	府中を中心とした武蔵の国の古代から近現代までの郷土の歴史を市民に知ってもらい、歴史と伝統の町府中の魅力を発信し、広めることで、市民に府中市の住民であることの喜びや誇りを感じてもらうことに多少なりとも役立っているのではないかと思います。	多くの市民団体で直面している会員の減少と高齢化対策。そのため、事業予算に余裕がなく、役員数が少ないこともあり、活動が限定され、新たな事業を行う余裕がない。	ともすれば忘れられてしまいがちな市内の過去の出来事を、発掘調査し、次世代に残すこと。(現時点ではなかなか難しい)	本会は、過去には、教育委員会内に事務局があり、現在は、府中市や郷土の森博物館の協力があって活動ができていますので、今後も永続的に協力いただきたい。
⑤	特定非営利活動法人ママチャリーズ	28名	府中市内	不特定	ママチャリーズは「子育て中のママが地域の一員として笑顔で過ごせるまち」を目指し、府中市を拠点に活動を続けています。これまでの主な成果は以下の通りです。 ・親子の居場所づくりの定着「おしゃべりひろば」など、親子で安心して過ごせる場を継続的に開催し、のべ1,000組以上が参加。孤立感の軽減や地域とのつながりが生まれました。 ・地域ぐるみの支援ネットワーク形成「すまいるサンタ」「モッテキテモッテッテ」など市民団体や店舗、時には行政を巻き込んだ寄付やボランティアの輪が年々拡大。地域全体で支え合う仕組みが形になりました。 ・子育て支援団体や個人へのサポート 相談やイベント協力などを通して、他団体の立ち上げ支援や伴走的な支援を行い、地域全体の活動の広がりにも貢献しています。また「ふちゅう子育て応援団連絡会～子育て会議」の事務局として、府中市及び近郊の子育て支援ネットワークを充実させています。	・活動拠点の確保 毎回会場を確保する手間や費用が大きく、安定した活動拠点が無いことが課題です。 ・資金面の継続性 助成金や寄付に頼る部分が大きく、安定した財源づくり(協賛・自主事業収入など)の仕組みが必要です。 ・情報発信と認知の課題 SNS等を活用しているものの、支援を必要とする家庭へ十分に情報が届かないことがあります。	・子どもの意見表明と地域活動の場づくり キッズボランティア制度を導入して、子ども自身が主体的に参加できる仕組みを整えていきます。 ・団体運営の基盤強化 スタッフ育成・会員拡大・資金計画の整備を進め、持続可能なNPOとしての体制を整えていきます。 ・行政・教育・福祉との連携強化 学校や相談機関と協働し、不登校・ヤングケアラーなど多様な家庭の支援体制を地域で支えるモデルづくりを目指します。	・市民活動団体への継続的な支援体制の強化 単年度の助成金だけでなく、継続的に地域団体を支える中間支援的な仕組みを整えてほしいです。 ・公共施設の利用・予約の柔軟化 小さな団体でも使いやすい料金・申込制度を希望します。特に市民活動センタープラッツについては市民団体の優先予約制度導入を希望します。 ・広報面での協力 市の広報誌やSNSで、民間団体の活動をもっと紹介してもらえると、支援を必要とする家庭にも届きやすくなります。・行政との情報共有・連携の強化 支援の現場で見えている課題を行政にも共有しやすい対話の場を、定期的に設けていただきたいです。また子育て支援ネットワーク「子育て会議」への予算を整え、地域一体での支援の質の向上に寄与してもらいたいです。

◆第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング(グループヒアリング) 事前アンケート【10月22日実施団体】

	団体名称	会員数	主な活動場所	活動日	これまでの活動を通しての 成果を教えてください	現在の活動で課題があれば 教えてください	今後の活動で目標があれば 教えてください	市に対しての要望があれば 教えてください
1①	府中エッチングの会	14名	学習センター版画室・工房2	日曜日(他の曜日にも活動あり)	学習団体の設立から30年間の活動期間中に、延べ70名以上のメンバーが銅版画制作の学習活動に参加してきました。2001年からは、同種の版画学習団体の仲間と合同でグループ作品展を企画し、これまでに府中市美術館にて11回(ほぼ隔年開催)開催しています。また、初心者を対象とした体験制作ワークショップを学習センターで過去20回以上企画・開催し、多くの参加者を楽しんでいただいています。その中には、継続的に活動に参加している方も多くいます。これまでの活動の中で、銅版画の公募展においても多数の入選や受賞もいただいています。	継続的に版画制作活動を行うため、版画室に常備される設備・什器・道具類の一層の充実を図りたいと考えています。版画室内の共用備品の保管やメンテナンス維持管理については、施設管理サイドと主要利用団体との協議を通じて、保全・補修体制の充実化を目指し、より良いアトリエ制作環境を確保して行きたい。	市内の小・中学生を対象とした初心者向け体験学習ワークショップを定期的に開催したいと考えています。また、現在府中版画会が実施している市民向けのオープンアトリエ形式による体験実習・研修会についても、今後は定期開催を目指します。当該学習団体では、サポートリーダーとなる人材の育成と確保を進め、メンバーの通常制作活動の円滑な運営と学習の充実につなげていきます。さらに、隔年開催のグループ作品展についても、今後も継続的な発展を図りたい。	版画室における版種別の利用管理マニュアルを協議のうえ作成していきたいと考えています。現在進行中の府中アリーナ新設計画に伴う生涯学習センターの移転・複合新設プロジェクトでは、アトリエ施設の引っ越しは可能な限り1回で完了できるようにしていただき、市民によるグループ学習活動への支障を最小限に抑えていただきたいと思います。さらに、新複合施設の企画・設計段階では、ぜひ利用学習団体との意見交換や要望事項のヒアリングの機会を設けていただければ幸いです。
1②	府中囲碁クラブ・こもく会	35名	▶主な活動場所:生涯学習センター研修室	活動日:年間を通じて、土、日、祝日	各会員の棋力(囲碁の実力)アップ 会員相互の親睦	会員の高齢化(およそ9割が70歳以上)	年齢の若い者の入会を促進	ルミエールに年間を通じて利用できるロッカーの設置(囲碁の活動には、一定数の基盤、基石が必要なため)
1③	リリアーレ	13名	生涯学習センター	毎週水曜日	ハンドベルの演奏技術が向上しました 保育園、小学校、商業施設、老人ホームその他いろいろな場所で演奏させていただき皆さんに喜んでいただけました	ハンドベル用のマットが経年劣化でへたっており 地下の倉庫にあるキャスター付き機の幅が45cmしかないのでベルが落ちてしまわないか心配です 1つのベルのベルトが切れかかっており いつ飛んでしまうか心配です	演奏依頼があれば できるだけ受けて たくさんの方々に聴いていただきたい 2027年に予定の定期演奏会を成功させる	ハンドベルを購入して頂いてからもう30年近いと思います 使用料をお支払いしますのでメンテナンス費用を確保していただきたい 受付カウンター裏の会議室の机(キャスター付き60cm幅)を地下の倉庫に置いて使わせていただきたい
2①	科学体験クラブ府中	29名	▶主な活動場所 研修会(住吉文化センター) 出展は市内文化センター、小学校ほか公共施設	▶活動日 研修会(月1回、第3日曜日) 出展は土・日が多い、年間約40回 ・研修会はイベント企画部が持ち回りで担当 ・出展はイベントごとに担当を決め企画運営をしている、クラブ参加者は規模により4名~16名くらい。	毎年の事業として府中市の子ども科学体験事業は11文化センターで実施。地区コミ協の納涼祭り(4)、子ども祭り(5)、生涯学習フェス(2日間)他の出展などで対応した子供は年間延べ約7,000人。	団体が創立されて24年になりますが当初から関わってきた会員の高齢化が進み活動継続が難しく退会するケースもある、新会員の入会が少ないことはここ何年も課題。	現在の活動数、内容の継続と新たなアイテムの習得に力を入れたい。新会員を増やし依頼される出展の継続をしていければと思う。	私たちと同じような活動をしている団体の情報があれば教えていただきたい
2②	府中市観光ボランティアの会	25名	観光情報センターを拠点として、市内の名所、旧跡	毎月第一土曜日、毎週木曜日	市内外に観光に訪れた方々に府中の魅力を伝えることが出来た。	会員の年齢が高い為、新規会員を入れていけると活動人数が不足する	会員を30名にしたい。	会員がゆっくり情報交換出来る場所(打合せの部屋)を確保頂ければ有り難い。
2③	ふちゅう道しるべ	約40名	プラッツ6階和室	毎月第4土曜日	子どもが学校に行けなくなったことで孤立し、情報が得られずにいた保護者が、同じ悩みや情報を共有できる仲間と安心して語り合うことで、エンパワメントに繋がった。	まだまだ府中市内で孤立している不登校家庭は多いと思われそうですが、まだまだ全然知られていないところが課題です。また、会で作成した、子どもが不登校になった時のためのリーフレットは、他市でも評価が高く、救われる人も少なからずいると思います。もっと活用していただけるよう、できれば教育委員会等行政とも協力できればと思います。	今後も増えるであろう不登校・行きしぶりの子どもの親が孤立しないために、親の会とリーフレットの存在をより多くの人に知ってもらいたい。学校に行きづらい子や保護者が、まちの中でより生きやすくなるよう、不登校の今を知ってもらいたい。	学校に行きづらい子どもがいちばんはじめに心の安定を取り戻すには、保護者の安定が重要です。保護者が安定するためには、情報はとても大事ですが、それは市民の草の根の活動では限界があります。行政と市民の活動の連携をお願いしたいです。
3①	多摩友の会府中方面	25名	中央文化センター 新町文化センター他	火・木曜日	年1回以上講習会を開き、家計簿を広める	会員の高齢化・減少	若い会員の増加・家計簿を広める	主催の講演会などのバックアップを希望
3②	手びねり会	7名	中央文化センター 窯場	第2, 第4水曜日 午前	それぞれが、自由に好きな作品を、制作する事ができました。	活動できる会員が減ってこのままでは、会を続けられない状況です。会を閉じるにも材料等の処分が大変。		午前、午後の時間で工作室が空いている時は利用させて欲しい。少ない会員数でも活動させて欲しい。
3③	練功十八法の会	24名	中央文化センター 新町文化センター	月1回・第3金曜日 13:00~15:00	練功十八法は、リハビリと病気を予防するための体操です。年齢を問わず無理なく出来るので長く続けることで元気に毎日を過ごすことが出来、80代になっても歩行、自転車などで会場に来ております。	練功十八法は府中市ではストレッチとして準備体操に取り入れている様です。高齢者施設での体操としても、取り入れて頂くともっと広めることができ、嬉しく思います。	若い人たちも含め、多くの人に入会して頂けるように、ふちゅう広報に乗せて頂いたり、中央、新町学習センターにチラシを設置して頂いています。多くの中もと一緒に体操することで、日々楽しく元気に過ごせる様に頑張りたいと思います。	中央文化センターを利用させて頂くことが多いです。駅にも近く、会議室・講堂も広く、料金設定も格安で利用出来、会員一同嬉しく思っております。

◆第4次府中市生涯学習推進計画 団体ヒアリング(個別ヒアリング) 事前アンケート【10月24日実施団体】

	団体名称	会員数	主な活動場所	活動日	これまでの活動を通しての成果を教えてください	現在の活動で課題があれば教えてください	今後の活動で目標があれば教えてください	市に対しての要望があれば教えてください
①	府中市スポーツ推進委員会	23名	市内体育施設	毎月第一木曜日(定例会) 第三木曜日(常任委員会) イベント実施日(土日が基本)	スポーツの日に実施される、「みんなのスポーツday」や府中市ポッチャ大会の開催を通し、普段スポーツに馴染みのない市民に対し、スポーツ活動を始める動機付けやパラスポーツのポッチャを広める活動をしている。	若い世代がスポーツ推進委員という活動に興味を持ち、参加してみたいと思えるような取組が必要。また、ポッチャに代わる新たなスポーツの普及啓発をすることが必要であると考えている。	スポーツ振興のコーディネーターとして、地域からの情報やニーズを酌み取る、市民と行政とのパイプ役として活動すること。	スポーツ推進委員の活動をより広く周知すること。
②	府中市総合型地域クラブすたあと	134名	府中市立矢崎小学校体育館	火・水・木・金・日	スポーツや文化活動を通して、会員(小中学生)の技術だけでなく心身の育成の一助となったこと	現在指導者やスタッフ数に過不足は無いが、今後の世代交代	活動場所やスタッフを増やせる見込みがあれば、新たな競技種目や文化活動を増やし、会員や地域で求められることに更に応えていきたい	学校施設利用時の冬季の暖房使用許可 ※12月～2月の体育館や武道場は大変室温が低く、運動時や活動時に怪我のリスクが高い状況のため、有料でも構わないので暖房使用許可を要望します
③	府中市民交響楽団	80名	全体練習:府中の森芸術劇場、ルミエール府中 部分練習:劇場分館、プラッツ、各文化センター 市内施設が予約不可の場合、調布市の施設も使用しています	毎週日曜日午前中(時折午後もあり)	当団は2024年に創立45周年を迎えました。年2回の定期演奏会の他、年1回の室内楽演奏会、子ども向けファミリーコンサート(隔年)、府中「第九」への参加、を主な活動としています。 定期演奏会への来場者数は春秋とも概ね1,000人、市内外からリピート客も多く、市民オーケストラとしては多い方だと自負しております。お客様からの感想も良好です。 団員の活動(練習)への出席率も高く、プロフェッショナルの先生によるハイレベルな練習を続けております。 日々の活動(練習)と成果発表(演奏会)、両面ともに充実させ続けていることこそが、成果だと考えております。	活動費用は主に団員の会費によってまかなっております。しばらくその会費額も変更せずにきましたが、毎年、直上げを熟慮せざるをえない状況にあります。また、1,000人を集客しているとはいえ、府中の森芸術劇場の定員数は2,000人、満足はしていません。団員からのPR、チラシ配布、ネット販売、SNS、…思いつくかぎりの宣伝活動はしておりますが、まだまだ考えなくてはなりません。	まずは団員が健康的に練習を継続できること。充実した練習が充実した演奏会につながると考えています。さらに、1人でも多くのお客様を集めること。1,500人～2,000人のお客様を府中の森に集めることが目標です。	・練習会場及び本番会場に関して:予約が以前より容易になったと担当から聞いています。毎月の抽選もオンライン申込にさせていただいたこと等、感謝しております。 ・活動費の助成に関して:秋の芸術文化祭等多くの助成をいただいていることに感謝しておりますが、例年の活動ではない「企画」を立案しやすい状況にさせていただけるとなお有難いです。 ・集客・広報に関して:市内でもっと活動をPRできる仕組みを期待しております。劇場や文化センターは一部のしか利用しないイメージがありますので、例えば、最も人が通る「府中駅」で広報活動ができる仕組み、等。
④	NPO法人 府中かんきょう市民の会	61名	主な活動場所 府中市内(押立町緑地、府中町3丁目の農園、市内生産緑地での援農、西府産線周辺、都立府中の森公園内、その他小学校で環境学習、多摩川河川敷、毎月の定例会や講演会などは市内公共施設・文化センター等)	活動日それぞれの活動内容に合わせて随時	・JAと協働で農園塾の開催や援農ボランティア活動を継続 ・東京農工大との協働で親子「環境・自然体験学習・観察会」を実施 ・審議会や協議会等に参画し、数々の市政への提言や要望書提出 ・国の外郭団体「あしたの日本を創る協会」等の助成金を受け、数々の活動の充実を図る(樹木マップ作成、子ども食堂への野菜の提供、市民花壇づくり、講演会や学習会の実施など)	・役員は75歳以下としているため経験を積んだ人財不足が生じる。 ・パソコンやLINEでのやり取りは進んではいるが、オンライン会議の参加者が限定されている ・各リーダー等役割分担の分散化が望まれる ・平常時の活動もあるため、平日の定期活動に関われない人財不足 (月一回平日開催の定例会参加者数にも影響あり) ・一部の事業に高齢化が生じている ・交通費等の実費払いはするが、無償ボランティア活動の継続	・時代の変化と共に自らが学び、積み上げてきた「学び直し」が発揮できる場であり続けること。大学や学生達と学び合う場とすること。 ・会員数の増と繋がる団体を増やす ・会員数に地域差があるため、その解消	・市内の中央である中央文化センターをほぼ毎月使用している。 (生涯学習センターを利用することはほぼ無い) ・市主催の学習会、講演会等の積極的な開催 ・市内の各団体との協働事業の推進 (例:市民が気軽に参加できる団体活動の紹介など) ・当会は、文化センター登録団体、市民活動センタープラッツの登録団体、フチャールで講演会等も利用し、次期計画がどのように庁内で連携した施策や計画になるのか、伺えれば幸いです。
⑤	府中市多文化共生センターDIVE 運営委託実施者:特定非営利活動法人エンツリー	スタッフ 常勤2名・非常勤3名 登録市民ボランティア(通訳サポーター)36名(R6末)	①外国人向け相談窓口:月～土11時～15時 府中市市民活動センタープラッツ内DIVE事務所を中心に、市の各部局や学校、保育園、社協などからの依頼があれば現場での通訳サポートを行っている。 ②外国につながる小中学生の放課後の居場所・学習支援: 月/紅葉丘文化センター 水/DIVE・フチャール・武蔵台文化センター 木/栄町体育館 ③日本人と外国人の交流 多文化交流サロン:毎週土曜午前@プラッツ フィリピン語サロン:年6回土曜日@プラッツ 親子向け DIVE KIDS PLAY:年3回@プラッツ ④情報の収集発信 外国人住民に有用な市の情報やイベントを中心に、SNS等で発信 公式LINE登録数553名(R7.10/10現在) DIVE開設時間は月～土10時～17時	①外国人むけ相談窓口…コロナ禍でのワクチン予約相談や生活困窮外国人への食糧支援を実施。それ以降、在住外国人の一次相談窓口を担い、母子保健、就園就学、家庭内問題、在留資格の相談、転入転出、転居、就業、福祉、進学など各種相談に対応し、日本での生活をサポートしてきた。 外国人の対応に困っている公共窓口等の支援を行ってきた。 最近母子保健関係の「みらい」からの支援要請が増えている。 R6相談件数 181件・専門家(弁護士・行政書士)相談件数10件 ②外国人住民の増加に伴い、日本語がまだ十分習得できていない子どもたちの学校生活を、教育現場では対応しきれない放課後の場づくりで日本語の勉強や宿題のサポート、交流をサポートしてきた。各会場の平均参加者10名程度 ③多文化交流サロンでは、在住外国人の母国紹介やライフヒストリー、日本人の海外経験のシェア、やさしい日本語の講習などを通じて交流を促進してきた。フィリピン語サロンでは東京外大の授業とのコラボで在住フィリピン人との交流を深め、徐々に「ズンバの会」など、自主グループ化を推進してきた。又、外国人の乳幼児を持つ親子や外国に関心のある親子の交流を促進してきた。 ④「広報ふちゅう」や市のメルマガなどからの情報入手があまりできていない外国人住民に、SNSでやさしい日本語、英語、中国語などで有用と思われる情報を伝えた。R6/LINE投稿件数71件・Instagram投稿件数127件	①外国人住民の増加に伴い、各窓口で外国語対応に課題があるようだが、まだ十分に庁内にDIVEの存在が知られていない。 ②放課後学習支援として日本語のサポートを行っているが、要望のある全外国人児童に対応できていない。公平性に課題がある。 ③イベントとしての交流サロンには限界があり、常時開設している交流の場が必要である。そこでお互いに有用な情報を入手することで、生活の質を高め、孤独や不安の解消につながると考えられる。 ④災害時の情報発信のフローが未確定であるので、多様性社会推進課・防災危機管理課・広報課などと連携し、いざというときの外国人の不安に対応するための準備が必要である。	外国人住民は今後も増加することが見込まれている。日本で疎外感なく、人間として十分に尊重され、その人らしい暮らしができるよう、一人一人の事情に寄り添った伴走的な支援を継続していきたい。特に子どもは親の都合で日本に来たものであり、どのような生活環境の子どもでも大切にされ、衣食住に窮することの無いよう、友達との交流や学習の機会が失われることの無いよう、関係各所が連携して、子どもにとってのよい環境を作れるように努めていきたい。 また、シングルマザー、生活困難、疾患など、困難な状況に陥る外国人は女性が多いことにも注目し、女性支援の施策も検討するよう、状況の把握、とりまとめをしていきたい。	①庁内へのDIVEの役割のさらなる周知をお願いしたい。市役所等での外国語での対応が難しい場合は、通訳派遣をDIVEに依頼してほしい。また、片言の日本語ができる外国人はとて多いので、市役所職員等が「やさしい日本語」で対応してくれるよう(高齢者・障害者等への対応にも通じる)、要望する。DIVEでは職員向けに「やさしい日本語研修」も実施できる。 ②学校現場では100時間の初期日本語支援を導入しているが、その後の授業内や放課後の日本語支援が不足しているため、その体制の拡充を要望する。課題のある外国人児童・生徒に対しては、スクールソーシャルワーカーとDIVEとの連携の機会を要望する。	

◆第4次府中市生涯学習推進計画 審議会委員所属団体ヒアリングアンケート

団体名称	構成団体数 (構成会員数)	これまでの活動を通しての 成果を教えてください	現在の活動で課題があれば 教えてください	今後の活動で目標があれば 教えてください	市に対しての要望があれば 教えてください	府中市の生涯学習を推進するために 重点的に取り組むことは 何だと思いますか。
府中市芸術文化協会	登録文化団体 数 6部門31団体	協会としては、会則に定める目的(第3条)を達成するため、年度ごとに事業計画をたて実施してきた。特に市民芸術文化祭については市と協働で計画し、各文化団体の催し物に多くの市民(文化団体の構成員も含む府中市民)の参加を得ており、文化団体の交流推進に、また、市民が多様な芸術文化に親しむ機会を提供し芸術文化に対する理解・認識を高めることに貢献している。 [参考] 会則第3条(目的) 芸文協は、芸術文化を愛する市民並びに市と協働して、ふるさと府中の芸術文化を振興するとともに、さまざまな芸術文化活動を行う団体相互の発展と交流につとめ、まちづくりに貢献することを目的とする。	高齢化社会の影響があるところに、さらにコロナ禍により、加盟団体数が減少傾向にある。高齢になっても自分の現状や体調を把握しながら、家族や団体構成員の支援を受けて活動に参加できていた人が、コロナ禍により活動を控えざるを得ない状況になった。そのため、団体構成員の減少により団体の維持継続が難しくなっている状況が増えつつある。特に若年層の新規参加を見込みにくい分野への影響が大きいと思われる。	協会としては、上記目的を達成すべく、さまざまな芸術文化活動を行う団体(会員)を増やすことが肝要であると考え。若い世代の取り込み、また、年代に関係なく自由に参加できる芸術文化活動をピックアップし、府中市民がより幅広く芸術文化に触れられるよう、芸術文化の分野を幅広く見直し、協会への加盟を提案していく。また、既存の加盟団体について、高齢化に伴う団体構成員の減少に対して団体の存続・活動の継続に関しての支援策を検討・推進していく。	芸文協全体、各団体の活動状況等を広く市民へ情宣していただきたい。『市広報』での掲載回数の緩和、市HPの更なる充実、合わせて市民へのデジタル化マインドの向上に向けた企画・発信をお願いしたい。特に、市民文化祭の概要(期間・実施内容・会場案内等々)については、市内至る所で幅広く広報活動をお願いしたい。	まだまだ『生涯学習』という言葉そのもの、考え方について、広く市民に定着しているとは言えないのではないのでしょうか。『生涯学習』の概念を始め、様々な市民活動の他にも、個人による身近な活動が生涯学習に通じるという考え方を、あらゆる年齢層・全市民へ徹底的に浸透させることが必要ではないのでしょうか。
府中市スポーツ協会	加盟29競技団体	間も無く創立70周年を迎える歴史の中で、競うスポーツ、楽しむスポーツを通して、「スポーツの力で府中市民の元気を高める活動」を推進し、健康増進に寄ってきた。この活動方針をさらには発展させるべく、「体育」から総合的なスポーツ振興に舵をきっている。府中市、関係団体と更なる連携を強め、「スポーツタウン府中」の発展を目指して地域全体の活性化を推進している。 ＜活動実績＞ ・第66回となる府中市スポーツ大会、市民スポーツレクリエーションフェスティバルの開催 ・(公財)東京都スポーツ協会主催大会として本年で第79回になる東京都スポーツ大会、スポーツフェスティバル東京への出場。ジュニア育成地域推進事業、シニアスポーツ振興事業の開催 ・(一社)東京都レクリエーション協会主催の第37回都民スポレクふれあい大会への出場 ・東京都市町村スポーツ協会連合会主催の第57回東京都市町村総合スポーツ大会出場	資産を保有していない特定非営利活動法人であり、組織の経営基盤が安定しておらず、府中市からの受託事業の遂行と加盟団体の会費・賛助会費に依存せざるを得ない。加盟の競技団体においても、運営、組織維持の努力に頼るところを短期間で改善する方策が見いだせていない。自主事業の発掘を真剣に検討しなければならない。	既存の各種大会を課題無く運営していくことが基本としてあり、府中市の大会においては、参加する選手層の拡大、選手人数の造出をしていく。東京都、市町村大会においては、出場機会の喪失をしないことと上位成績を狙うことも視野に入れて活動をしていきたい。また、競技団体の維持が困難なものや、対象年齢層が高くなっている競技への支援を継続的に実施して未来を見据えていきたい。	府中市という行政の対応の中で、各事業にもっと踏み込んだ協力ができるように、情報交換が必要だと感じる。事例として、市のトップアスリート事業においては、実施を広報紙等で一般市民と同じレベルで知ることになる。お互いに限界はあると思うが運営／支援という視点で関係する競技団体の動員があっても良いように感じる。	広報に関して、参加者を集めやすいアスリートを配し多くの市民に呼び込みをする。高齢化社会になりつつ現在、高齢者にたいして市内施設の利用料の無料化(一部はあり)を図り参加型学習を増やす。
府中市立小中学校PTA連合会	府中市立小学校22校 府中市立中学校11校 計33校 所属会員15,930名(令和7年5月)	府中市立小中学校PTA連合会は子どもを取り巻く環境を厳しく見つけ、家庭教育、学校教育、社会教育等の重要性を生涯学習の視点からとらえ、家庭教育学級など、さまざまな形で学びPTAの推進をしてきました。各校PTAが単独、または複数校合同での家庭教育学級の開催、またPTA連合会としてはスケールを活かした開催を通じ、その時代に合わせた学びの機会を得ることができたと思います。	学校、家庭を取り巻く社会環境が近年大きく変化している事に伴い、PTAも各校状況が大きく変わってきております。これまでのPTAは家庭に居る母親が運営の中心であり、時間軸などもそれに合わせた認識でした。PTA、特に本部役員の成り手不足などは深刻であり、家庭教育学級などの運営、実施も見送る学校も増えています。	PTA連合会のスケールを活かした家庭教育学級で保護者児童参加型の新しい試みを実施したところ、とても好評でした。今後もPTA連合会のスケールを活かした、これまでの概念に捉われない学びの機会を提供できたらと考えます。	家庭教育学級については市の委託事業であり、予算をいただいておりますが、予算の使い方について制約が非常に多い、使い勝手が悪くせつ々事業を計画してもほぼ予算を使えないなどの意見が出ております。これからの時代、環境に沿ったより良い学びの場を作るためには、継続的に見直しを行い、柔軟な体制を要望します。	生涯学習については残念ながらまだ多くの市民の日常にはないと考えます。継続的に取り組むこと、周知する事が必須だと思います。また、府中市の生涯学習だからこそ、所謂マイナーなジャンルなどの幅広い受け皿となる事も大事だと思います。
府中市生涯学習ボランティア「悠学の会」	約50名	1. 「生涯学習だより」の定期的発行(季刊で年4回、直近で第93号)で、市民に学習情報を提供する一助ができた。 2. 生涯学習にかかわる市民の活動、イベントを映像化して記録に残す活動ができた。 3. 教養講座を定期的に企画運営し、講堂講座の受付担当も含めて、学習センターの講座実施に協力できた。 4. 市民のICT能力向上に資するため、パソコン講座、パソコンスマホ無料相談会などを、学習センターだけでなく、市内の公共施設でも実施して、市民の情報技術の向上、問題解決に寄与した。 5. 「生涯学習フェスティバル」や「学び返しフェスタ」に参画協力をし、会の活動紹介や市民との交流ができた。 6. プラッツ開催の市民協働祭りに参加し、生涯学習センターの広報、生涯学習ボランティアの広報に努めた。 7. 悠学の会のウェブサイトを開設し、生涯学習関係の情報を発信するとともに、会への勧誘の一助とした。 8. 会員と市民と一緒に学び、交流する場である「悠学ひろば」(ほぼ月1回開催)で、市民との交流ができた。 9. 悠学の会に参加することで、府中市の歴史や文化を学ぶことができた。	1. 会員の高齢化により、会員数の減少、活動量の減少傾向、担当者不足に悩まされている。 2. 進むデジタル化に高齢者が対応しきれなくなり、活動の不活性化につながっている。 3. 学習センター教養講座の受講者の減少傾向が続いている。 4. 学習センターの担当者との協働を十分はかることができていない。双方に課題ありと考えられる。 5. IT技術を持つボランティアが減少している。 6. 定年の延長、再雇用制度、主婦の就業者増などにより、会への入会者が減少しつつ高齢化している。 7. 他地域にある学習ボランティアとの交流	1. 市民の誰もが安価な費用で多様な学習ができる環境をつくるのに、ボランティアとして協力する。 2. 会員が学習意欲をもち、自己の充実した生活ができるように、互いの交流、相互研鑽をはかる。 3. 高齢者や主婦層へのIT技術習得支援 現在、高齢/主婦の就業者が増え、リスキリングが求められている。また、生活していくためにIT技術が必須の世の中になり、特に、高齢者がIT技術習得支援を求めている。 4. 新たな協働先の模索と現協働先との協働内容の拡大 5. グループメンバのスキル向上とアシスタントや講師への育成	1. 市の生涯学習振興や、民間の学習センター指定管理者に委任するだけではなく、市が責任をもって、施策の実行をしてほしい。もし学習センターを今後も拠点と考えるなら、運営に関して、市民のなんらかの関与の仕組みが必要と思われる。 2. 生涯学習ファシリテータ、インストラクター、ボランティア、府中カレッジ100、出前講座、大学との連携講座などいろいろな制度が作られてきたが、十分活かされていないもの、現在の時代に合わないものが増えてきている。新しい時代の視点で見直してほしい。 3. 生涯学習センターの解体撤去が予定されているが、それ以後の市の生涯学習推進のシナリオが見えない。今までは生涯学習センターを拠点として市の生涯学習施策を進めてきたと思うが、以後のソフトおよびハードの中心をどうするのか? 市政の中での生涯学習の位置づけを明確にしてほしい。社会教育主事の配置など。 4. 「学び返し」を推進施策の中心とするなら、積極的に推進する仕組みをつくるべきと思う。自然発生的には進まないように見える。 5. IT教育環境の充実 6. 教養講座(講堂講座)はさらに充実させた方がよい。 7. 生涯学習ボランティアを温かく見守って協力してほしい。 8. 高齢者の健康維持、ひいては、医療費削減に、生涯学習や諸活動に参加し他者と交流することが有効であり、その観点からも、生涯学習に参加し易くすべきである。全講座・講演会の受講料を100円程度に抑える等、費用を抑えるのも一案。 9. 2029/3頃の仮移転時、2032年度の新複合施設への移転時に、いつでも自由に集まれる「ボランティア室」と、パソコン講座のできる環境を確保してほしい。	上記の要望、及び、次のとおり。 10. 高齢者を中心としたデジタルデバイス対策 11. スマホ教育用インフラ(貸出スマホ)整備 12. 市の事業として、デジタル普及ボランティア募集・運用 13. 学習センターの目標や価値、大切さや楽しさをもう少し一般市民に、強く広報活動をされては如何でしょうか。 14. 高齢者が持っている知識や経験を地域社会に返す「学び返し」に目を向けさせるには、①学習センターの講座・講演会への参加促進、②生涯学習ボランティア団体への参加支援が必要。(生涯学習ボランティア養成講座の充実も)